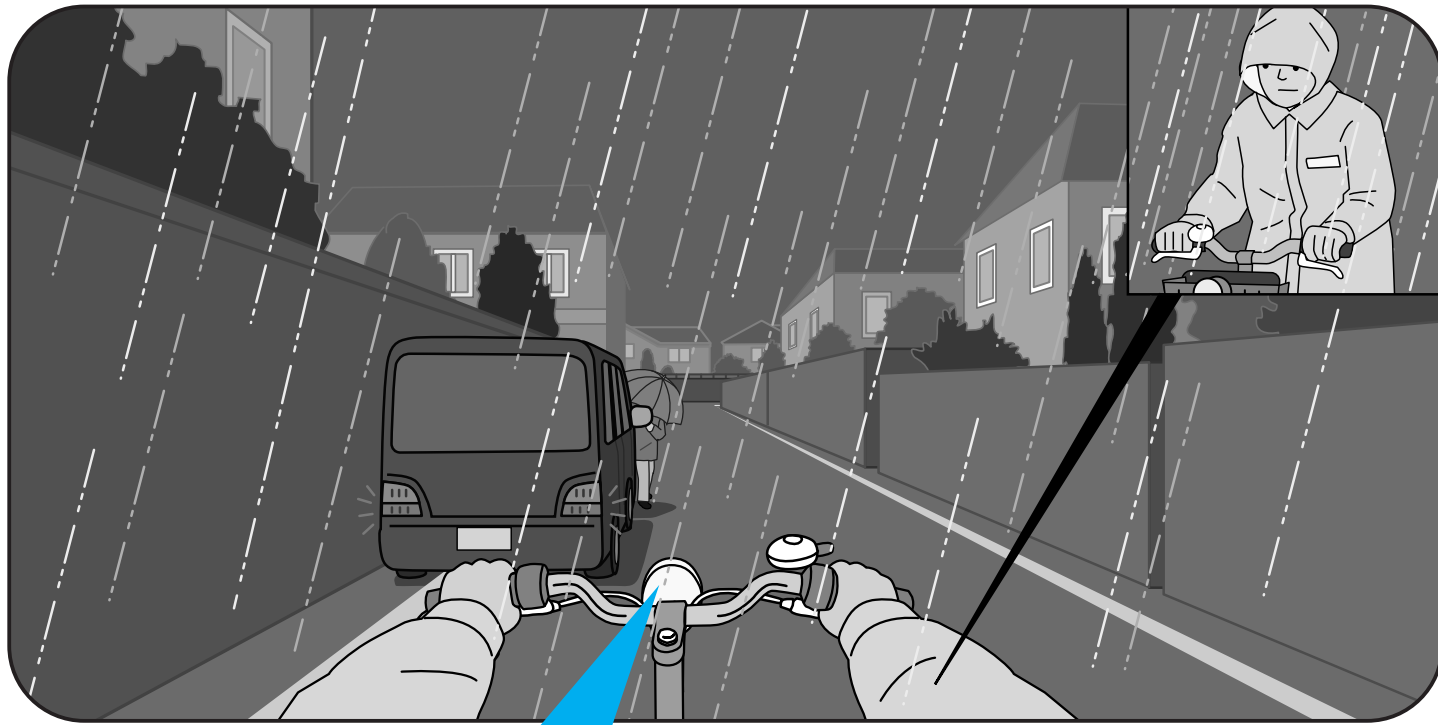


危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第25回 雨天時の走行(自転車)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、雨天時の走行の危険について考えてもらうためのKYTです。



活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

ホンダ SJ 検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部  
TEL: 03 (5412) 1736  
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

あなたは雨天の夕暮れ、自転車で走っています。駐車車両があるので、それを避けて進もうとしています。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

©本田技研工業(株)

指導者ファイル 6

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。



(財)長崎県交通安全協会・川棚地区交通安全指導員の皆さん  
山下優子さん(左)、田島愛里さん(右)

手づくりの教材で交通ルールやマナーを啓発

(財)長崎県交通安全協会(以下、長崎県安協)では県内16地区で36名の交通安全指導員が活動している。川棚地区は長崎県の中央部に位置し、佐賀県と隣接している地域だ。その川棚地区を担当しているのが山下優子さんと、田島愛里さん。二人は川棚警察署管内(川棚町、東彼杵町、波佐見町)で活動しており、平成23年は幼児、小学生、高齢者等を対象にした交通安全教室を150回以上開催し、啓発活動を行った。

「私たちの話を聞いて、1つでもいいから覚えて帰ってほしい。また次も私たちの話を聞きたいと思えるような交通安全教室にしよう」と努力しています」と山下さんは話す。

田島さんは「話をするだけでは関心を持ってもらえないので、オリジナルの教材を作成しています。もちろん、予算の制約があるので、自分たちでイラストを描いたり、段ボールを切ったりしながらの手づくりです」という。例えば、幼児にトラックやバスのタイヤを模したシートを原寸大でつく



り、幼児にその大きさを実感してもらっている。また、交通安全に限らず、バスの中でのマナーについてもイラストを使ったクイズ形式で指導しているようだ。

そうしたオリジナルの教材とともに、川棚地区では昨年、Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を幼児向けの交通安全教室に取り入れている。「サイズも大きく、様々な交通場面やクルマなどのイラストが用意されているので、指導する対象者に合わせた使い分けができます」と二人は評価する。



長崎県の交通安全教育の伝統を受け継ぐ

二人は高齢者向けにも交通安全教室を開催する一方で、毎年10～11月に波佐見町で高齢者宅訪問による啓発活動を行っている。

「私たちを含め、地元の中学生・高校生、交通安全母の会の方がチームになって、約80軒訪問します。中学生・高校生が高齢者に対して夜間外出時の注意を伝え、高齢者の靴や衣服に反射材をつけてあげます」。

長崎県安協では、交通安全指導員同士が情報交換の場をいくつか設けている。その1つは「交通安全指導員ブロック研修」として、県内を2つのブロックに分け、それぞれで実施。

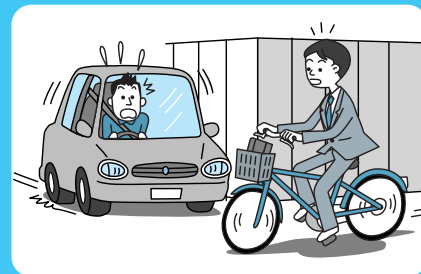
「ある地区の交通安全教室の現場を私たちが見学し、指導内容や受講者との接し方などについて意見交換を行うというものです。その後、自治体の交通安全担当者や、交通安全母の会の方を招いて、各地区で使っているオリジナルの教材や、どのような活動をしているかを紹介しています。『あやとりい』に関しても、こうした研修の機会を通じて、他の地区の指導員に紹介しました」と山下さんは説明する。

二人が担当している川棚地区は昭和44年、長崎県において初めて3名の交通安全指導員が誕生した地である。こうした伝統を受け継ぎながら、二人はより良い交通安全教育の手法を探求し続ける。

SJクイズ ?

Q1 平成22年の交通事故全体に占める自転車関連事故件数(自転車第1当事者または第2当事者となった交通事故件数)は何%を占めているでしょう？

- ① 約10%
- ② 約20%
- ③ 約30%
- ④ 約40%

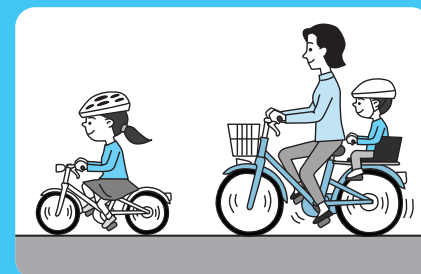


Q2 自転車関連事故件数で最も多い事故類型は、次のうちどれでしょう？

- ① 正面衝突
- ② 左折時衝突
- ③ 右折時衝突
- ④ 出会い頭衝突

Q3 自転車乗用中の15歳以下の交通事故死傷者数で、最も多い損傷部位は次のうちどれでしょう？

- ① 頭部
- ② 顔部
- ③ 腕部
- ④ 脚部



※「解答」は8面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

©本田技研工業(株)